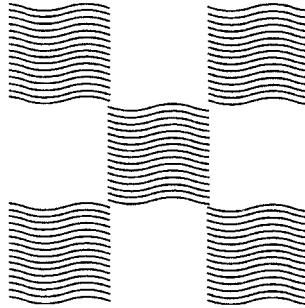


# 同志社社会学研究

「第10号」



2006年3月

## ●研究論文

企業組織における電子コミュニケーションと  
対面コミュニケーションの関係性

藤本 昌代

ある同志社台湾校友のライフストーリー

河口 充勇

インターネットの縁と独特の「仲間感」

清水 睦子

——ネットから Face to Face の関係になった  
あるファングループのエスノグラフィー——

ワーカーズ・コレクティブの可能性と限界

伏見 ゆず

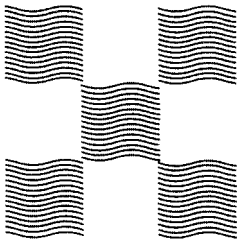
——参加型自主管理労働を支える現実——

## ●研究ノート

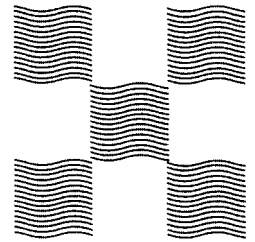
ナショナリズムの二側面性

古澤 慎介

——象徴への感情と国への感情の差異——



ISSN 1342-9833



# Doshisha Review of Sociology

No. 10 March 2006

---

## CONTENTS

---

### ●ARTICLES

The Correlation of Electronic and Face To Face Communication  
in Corporate Organizations

FUJIMOTO Masayo

A Life of Doshisha Taiwanese alumni

KAWAGUCHI Mitsuo

An Encounter through the Internet and a Unique "Friendship" :  
Ethnography of a Fan Group whose Relationship has changed  
from Internet to Face-To-Face

SHIMIZU Atsuko

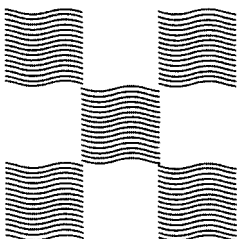
Support for Participation in Labor Self-Management :  
Possibilities and Limitations in the Workers' Collective

FUSHIMI Yuzu

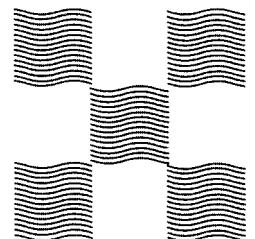
### ●NOTE

The Two Sides of Nationalism :  
Distinguishing Feelings Towards Symbol and Country

FURUSAWA Shinsuke



**Doshisha Sociological Association**



# 同志社社会学研究

NO. 10, 2006

<目次>

## ●研究論文

- 企業組織における電子コミュニケーションと  
対面コミュニケーションの関係性 藤本 昌代 1
- ある同志社台湾校友のライフストーリー 河口 充勇 15
- インターネットの縁と独特の「仲間感」 清水 睦子 27  
——ネットから Face to Face の関係になった  
あるファングループのエスノグラフィー——
- ワーカーズ・コレクティブの可能性と限界 伏見 ゆず 43  
——参加型自主管理労働を支える現実——

## ●研究ノート

- ナショナリズムの二側面性 古澤 慎介 61  
——象徴への感情と国への感情の差異——
- 研究室だより 77
- 2005 年度院生業績一覧 78
- 修士論文題目 81
- 執筆者紹介 82
- 「同志社社会学研究」編集規定
- 編集後記

## 「同志社社会学研究」編集規定

1. 本研究誌は同志社社会学研究学会の機関誌として社会学の研鑽に寄与し、また会員相互の研究交流に資することを目的とする。
  2. 掲載内容は以下のものとする（枚数：400字）
    - 研究論文（40～60枚）
    - 研究ノート（20～30枚）
    - 学会・研究動向（10～20枚）
    - 書評・紹介（10～15枚）
    - 研究室だよりなど
  3. 編集委員は本学社会学専攻教員、同院生及び同卒業生の代表により構成される。
  4. 投稿者は本学社会学専攻教員、同院生、同修了・卒業生とする。
  5. 原稿は未発表のものに限る。掲載の可否は、専門のレフリー（本学教員＋外部の専門家各1名）の審査の結果を受け、最終的に編集委員が行う。
  6. 原稿の締め切りは12月末、発行は翌年3月とする。
  7. 執筆要項
    - 横書き、口語常体、完成原稿で提出。註や参考文献の書式は日本社会学会機関誌「社会学評論」に準じ、論文の最後に別々にまとめる。詳しい執筆要領は別に定める。
  8. 提出原稿の形式
    - 題目は日本語と英文タイトルをつけ、フロッピー1枚とハードコピー（40字×40行）を3部提出。（フロッピーは1.4MBを使用し、MS-DOS及びMACのテキストデータとする。）
- \*その他の事項については、社会学の研究誌としての性格に鑑み、編集委員会が対応する。

## ◆ 編集後記 ◆

『同志社社会学研究』第10号をお届けします。

本号には2004年9月に本学で博士号を取得され、現在、同志社大学COE特別研究員としてご活躍の河口充勇先生の研究論文と2001年3月に本学で修士号を取得され、現在米国のアーモスト大学大学院で学んでおられる清水睦子さんの研究論文を掲載しています。また掲載論文・研究ノート中3本が社会調査実習での調査をもとに書かれています。毎回、社会調査実習は担当者が多くの時間をかけ、本格的な調査を目指しており、今回の論文はその研究成果となります。

本号は藤本昌代の論文(2002年度社会調査実習②(担当 藤本昌代))、河口充勇先生の論文(2001・2002年度社会調査実習①(担当 森川眞規雄先生))、清水睦子さんの論文、伏見ゆずさんの論文、古澤慎介さんの研究ノート(2005年度社会調査実習①(担当 小林久高先生))の5本で構成されています。

掲載内容に対する皆様のご意見やご批判は、本誌の向上に必要不可欠なものです。お読みいただき、是非、ご批判・ご意見・ご感想をお寄せ下さいますよう、よろしくお願い申し上げます。(藤本)

## ◆ 編集委員 ◆

森川眞規雄

藤本 昌代

飯田 剛史

田中 志敬

雨森 聡

西丸 良一

同志社社会学研究 第10号

2006年3月31日発行

発行人 同志社社会学研究学会

〒602-8580 京都市上京区今出川通烏丸東入

TEL. 075-251-3441

FAX. 075-251-3066

印刷 協和印刷株式会社